

平成30年度アーバンデザインスクール前期

歩いて巡る地域の魅力の伝え方

~カルチャー、ストラクチャー、ストーリー、ストリート、プレイス~
~カルチャー、ストラクチャー、ストーリー、ストリート、プレイス~

第1回 草津の歴史と自然

平成30年6月16日（土） 午前10時半から正午

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

滋賀県草津市野路1-13-36（JR南草津駅前西友南草津店1階）

アーバンデザインスクール前期スケジュール

全体コーディネーター 及川清昭 UDCBKセンター長（立命館大学理工学部教授）

回	日時	タイトル	講演者
1	6月16日（土） 10:30～12:00	草津の歴史と自然 （カルチャー）	馬場将史 草津市教育委員会 文化財保護課
2	7月21日（土） 10:30～12:00	草津市の歴史的建造物 （ストラクチャー）	青柳憲昌 立命館大学 理工学部准教授
3	8月25日（土） 10:30～12:00	地域文化のストーリーのつくりかた （ストーリー）	丁野朗 東洋大学大学院 国際観光学部 客員教授
4	9月29日（土） 10:30～12:00	快適に歩ける歩行空間 （ストリート、プレイス）	石川亮 成安造形大学 付属近江学研究所 准教授
5	10月27日（土） 10:30～12:30	ワークショップ 「歩いて巡りたくなる地域」のアイデア	藤井健史 立命館大学 理工学部助教

思わず歩いて巡りたくなる地域の5つの要素

都市の健幸づくりは、思わず歩いて巡りたくなる地域をすることです。
そのためには、次の5つの要素が重要です。

カルチャー (文化)	地域の歴史や自然など人々の生活の積み重ね
ストラクチャー (建造物)	カルチャーを体現した地域固有の歴史的建造物
ストーリー (物語り)	思わず出かけたくなる魅力的な体験や“物語り”の発信
ストリート (街路)	カルチャーやストラクチャーなどを巡りながら、快適に楽しく歩ける空間
プレイス (広場)	適切に配置された、カルチャーを体験できたり、休んだり、交流できる賑わい空間

草津には白鳳時代からの湖上・陸上の交通の要衝としての歴史があり、草津の気候や立地、そこに住む人々の活動といった風土にあった有形無形の文化財があります。これら有形無形の地域資源を活かした“歩いて巡る地域の魅力の伝え方”について5回シリーズで学びます。

本日のスケジュール

- ▶ 10時40分～11時20分 話題提供
「草津の歴史と自然」
草津市教育委員会文化財保護課 馬場 将史
- ▶ 11時25分～11時55分
ディスカッション「未来に伝えたい草津の目印」
- ▶ 11時55分
アンケート等

平成30年度アーバンデザインスクール前期 「歩いて巡る地域の魅力の伝え方」

草津の歴史と自然 (カルチャー)

平成30年6月16日(土) 10時半から正午

草津市教育委員会文化財保護課 馬場 将史

草津市の概要

- 面積：67.82km²
- 人口：約13万人

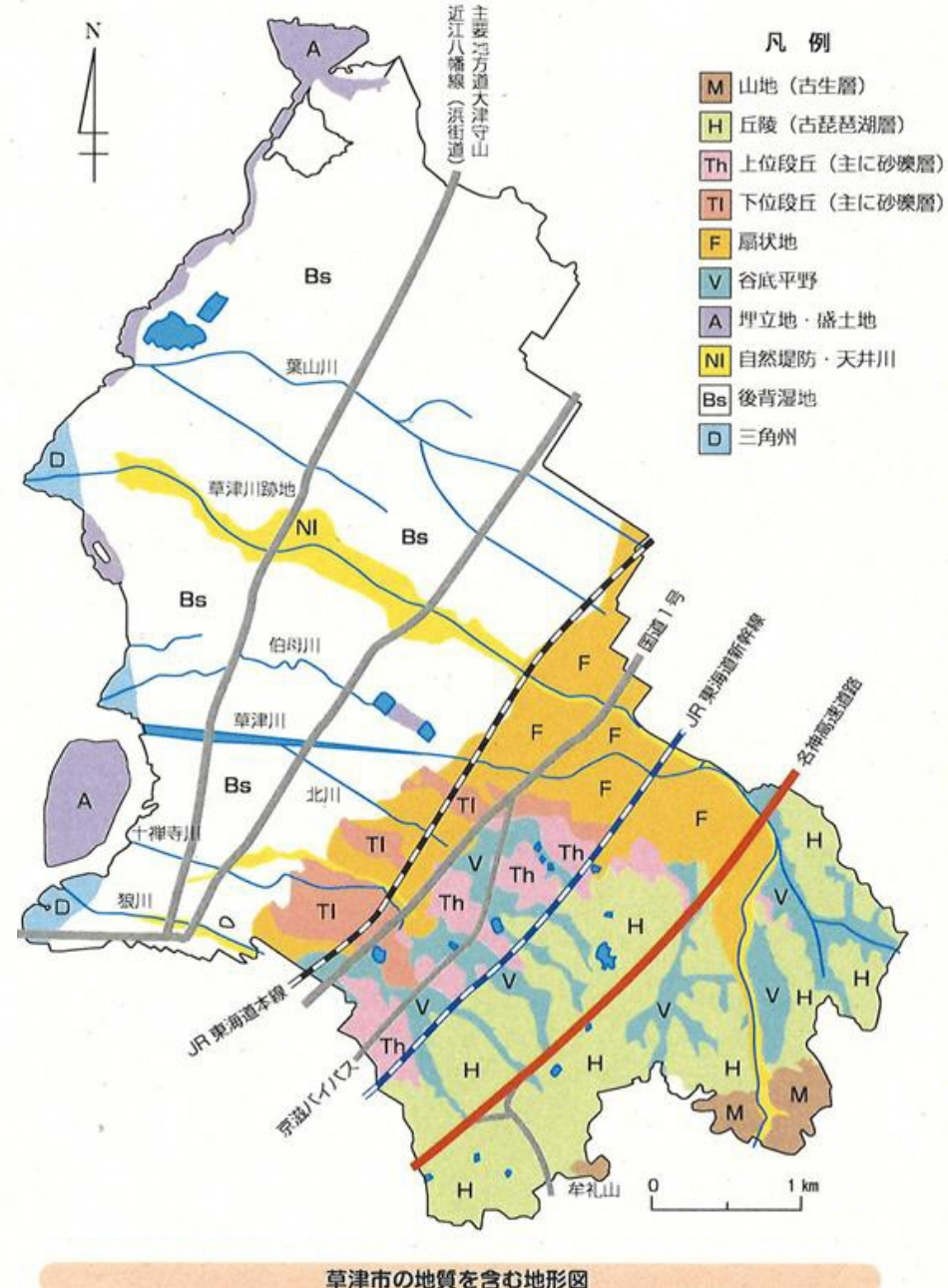
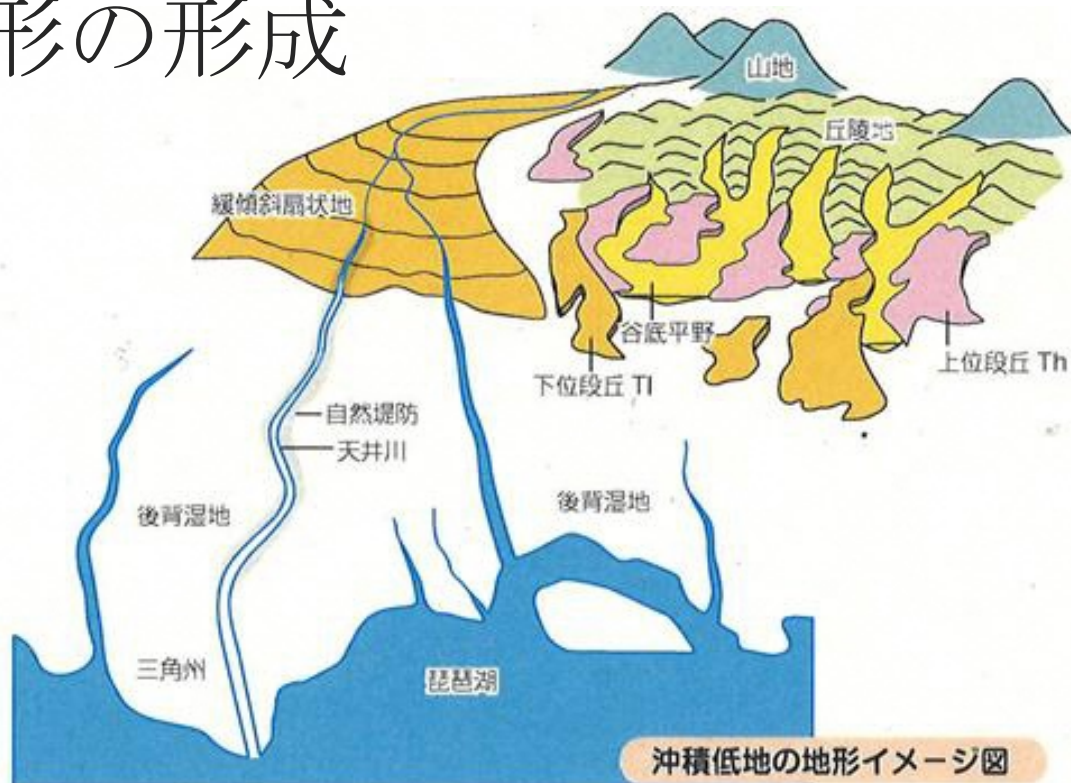


鉄道や高速道路が通過・合流する
交通の要衝

草津市の地形

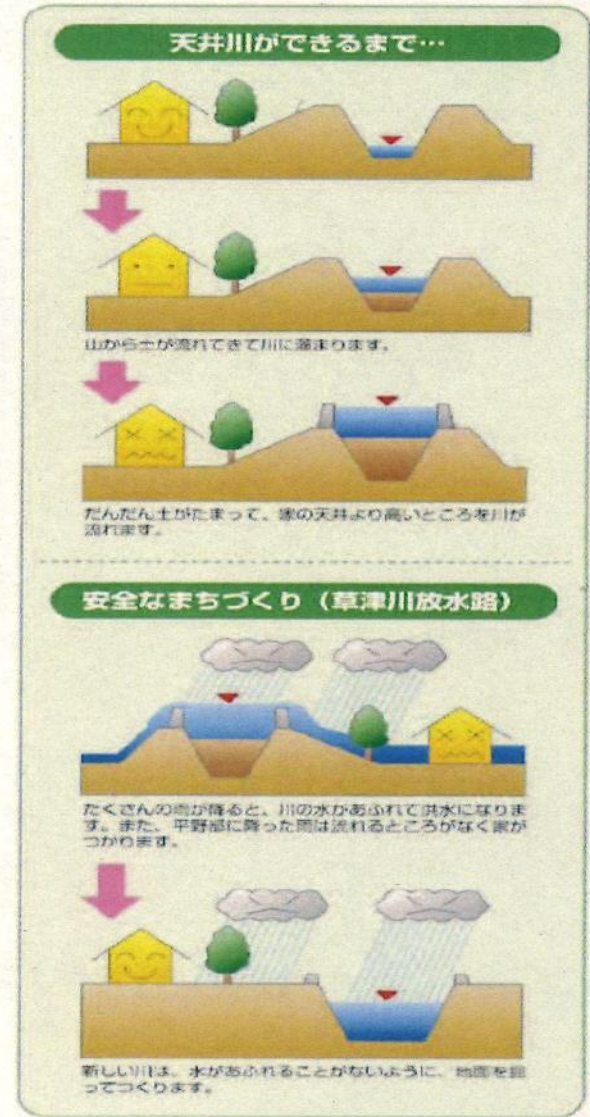
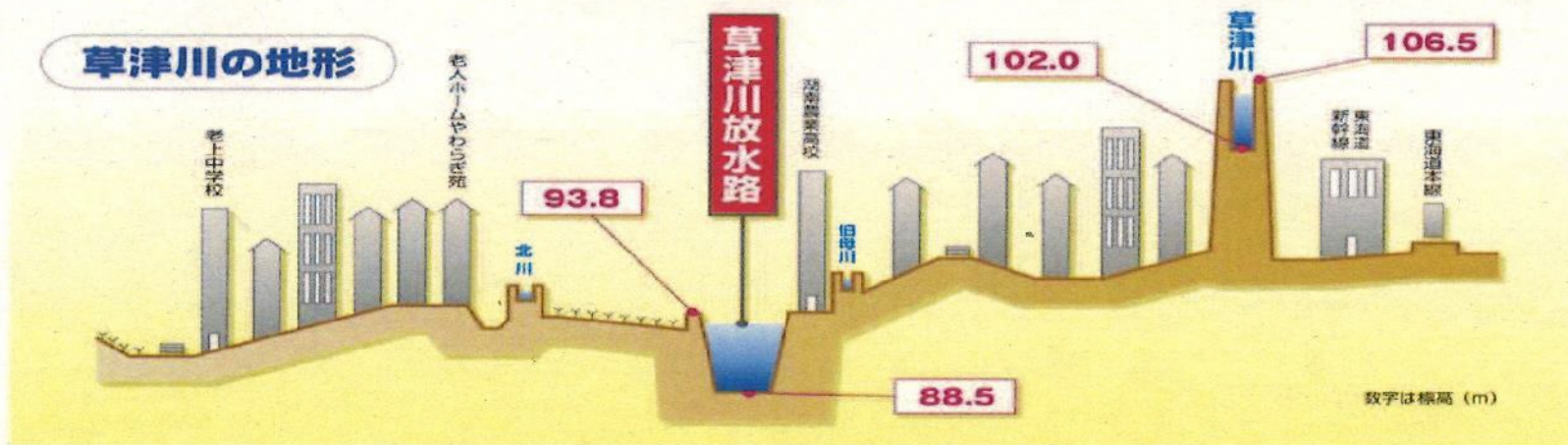
南東部の山地・丘陵
琵琶湖にそそぐ河川

→河川的作用による
地形の形成



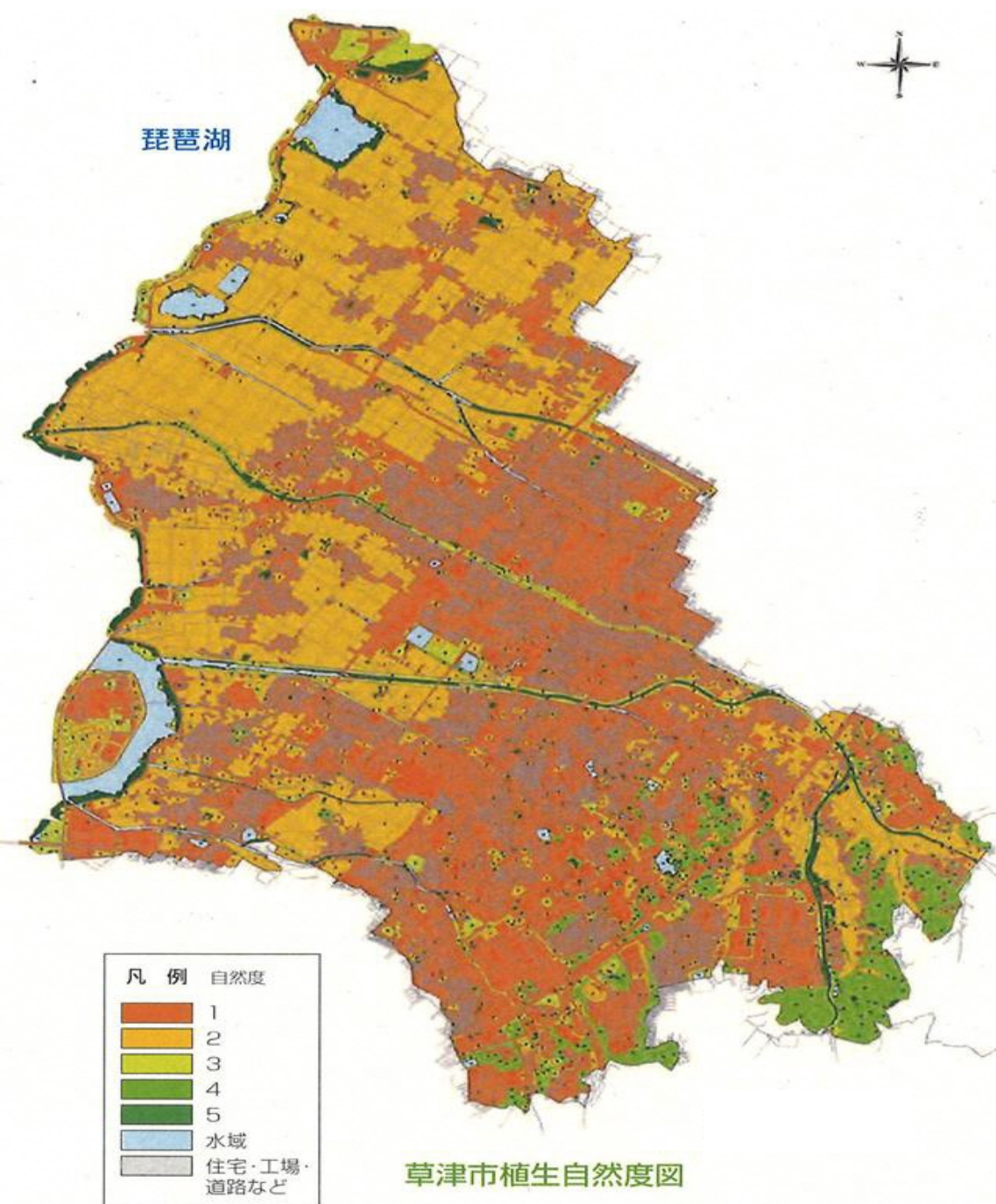
天井川化する草津川

- 川底の浚渫と堤防の発達により形成
- 新草津川と約13mの比高差



草津市の自然

- ・市街地には公園や社寺に緑が所在する。
- ・北西部は水田・畑地が広がる。
- ・川沿い・湖岸に原生に近い姿の自然が残る。

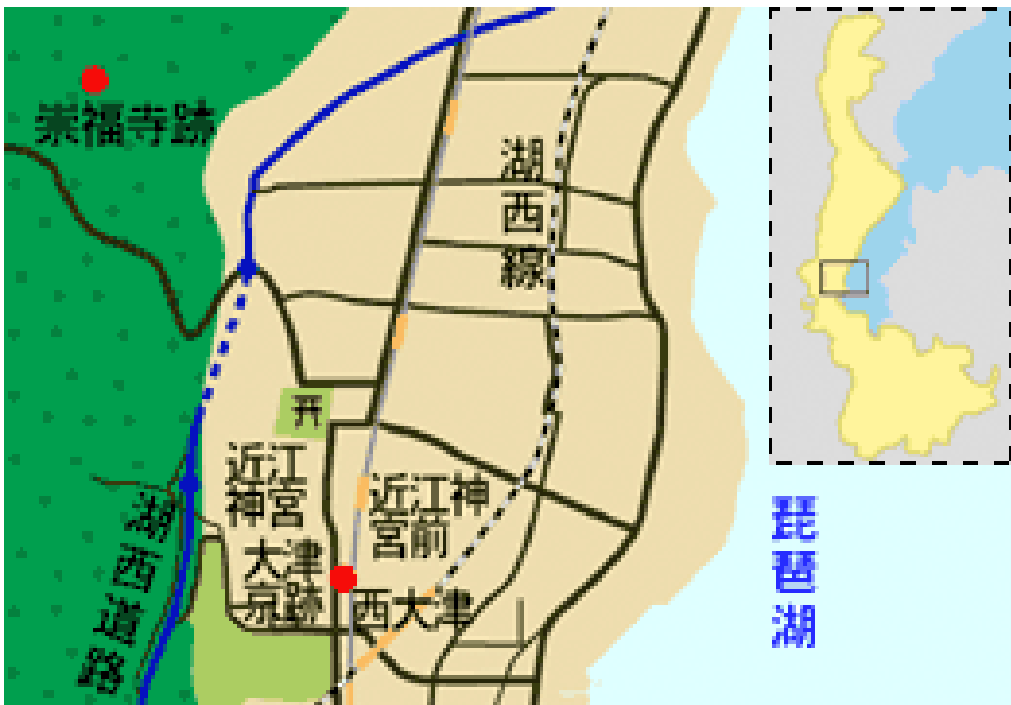


古代の都 繰り返される遷都



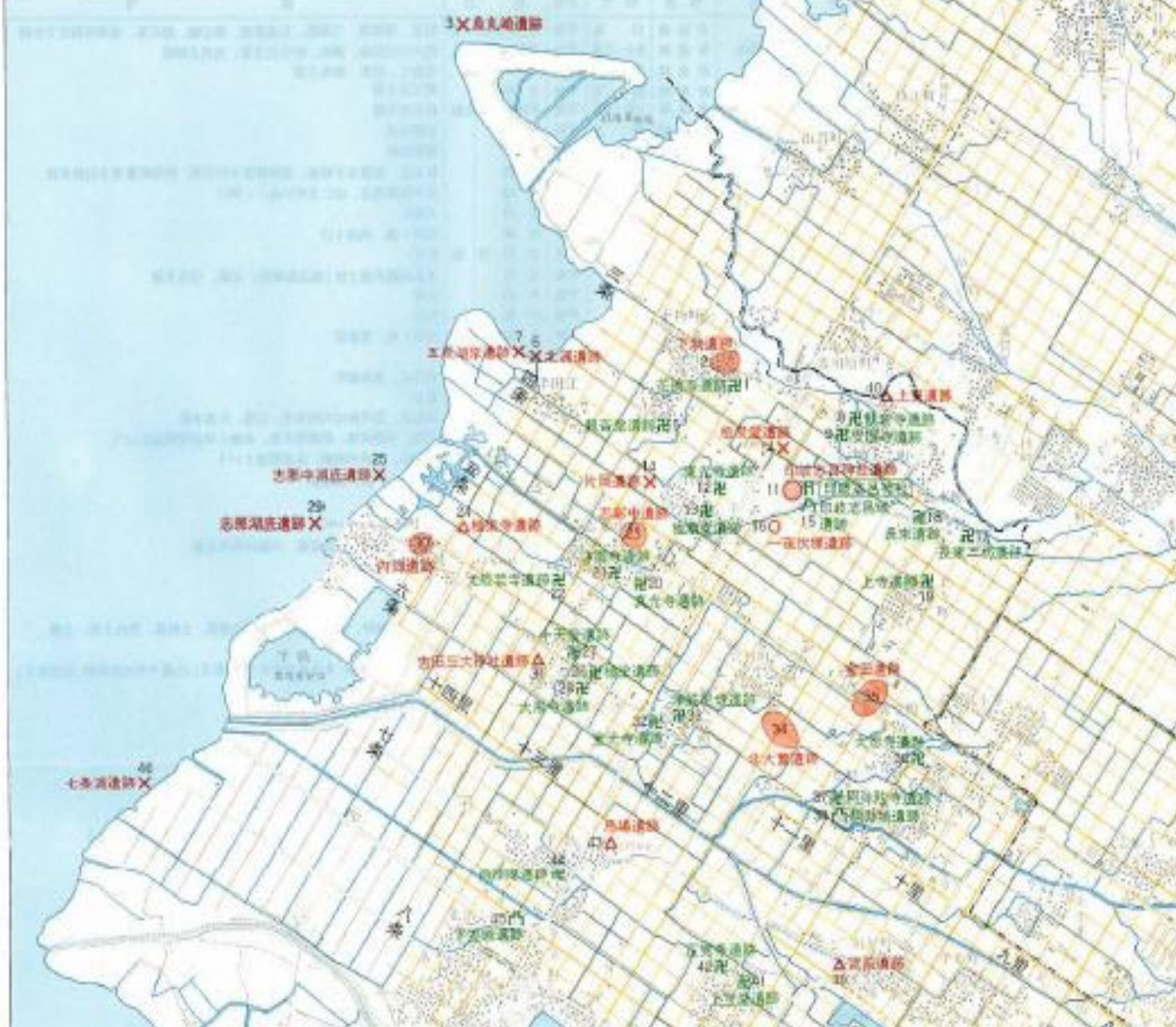
(平成遷都1300年記念事業準備事務局資料より)

草津の歴史的建造物



大津京
(大津市歴史博物館HPより)

対岸に大津京と
比叡山



古代の琵琶湖水運

琵琶湖に「八十の湊」

→琵琶湖には数多くの港があり、

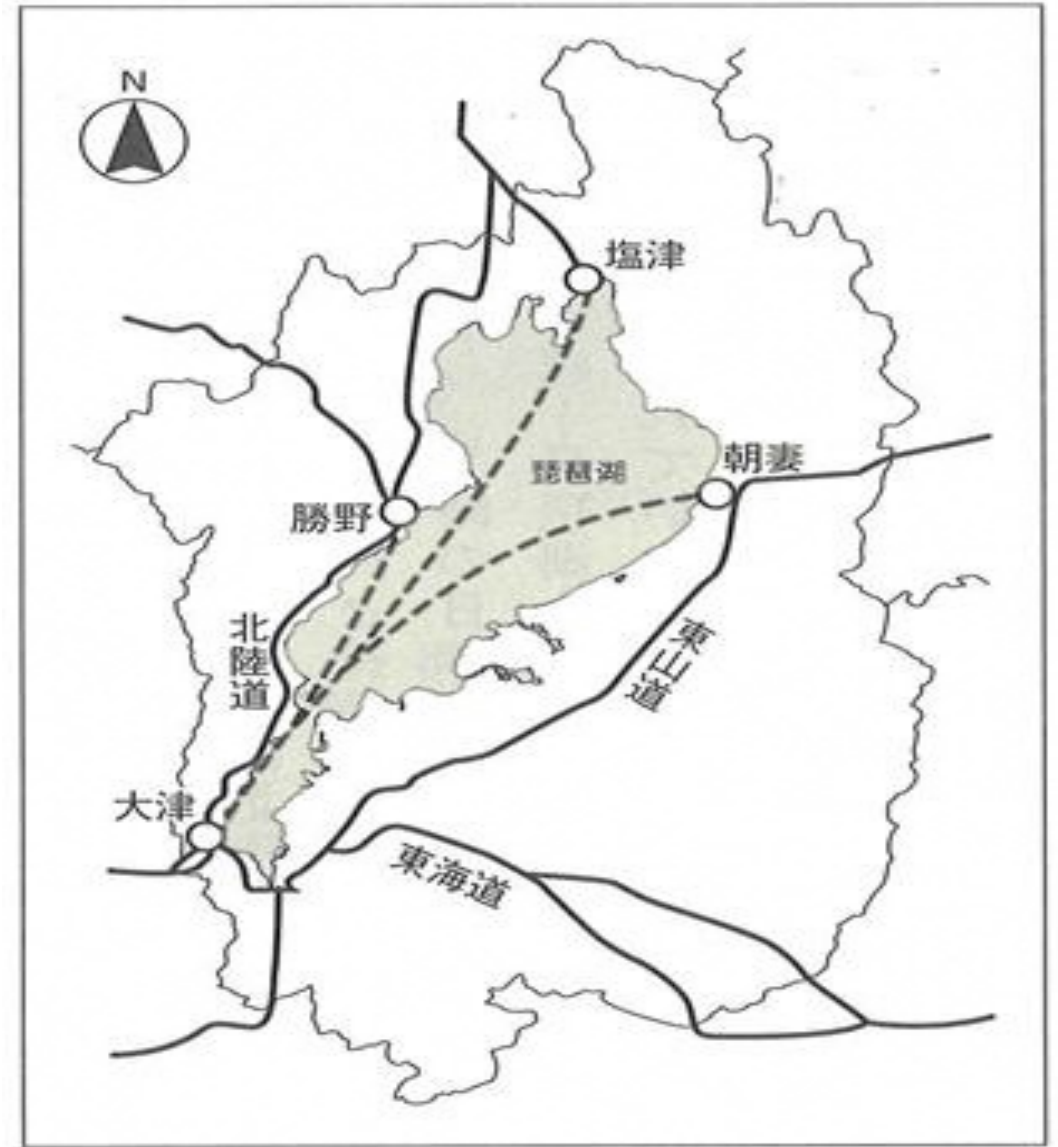
「東西二陸之喉也」

→東は不破、北は敦賀、南は山城に通じる交通の結節点。

・ 木材を運ぶ経路

琵琶湖→瀬田川→宇治川

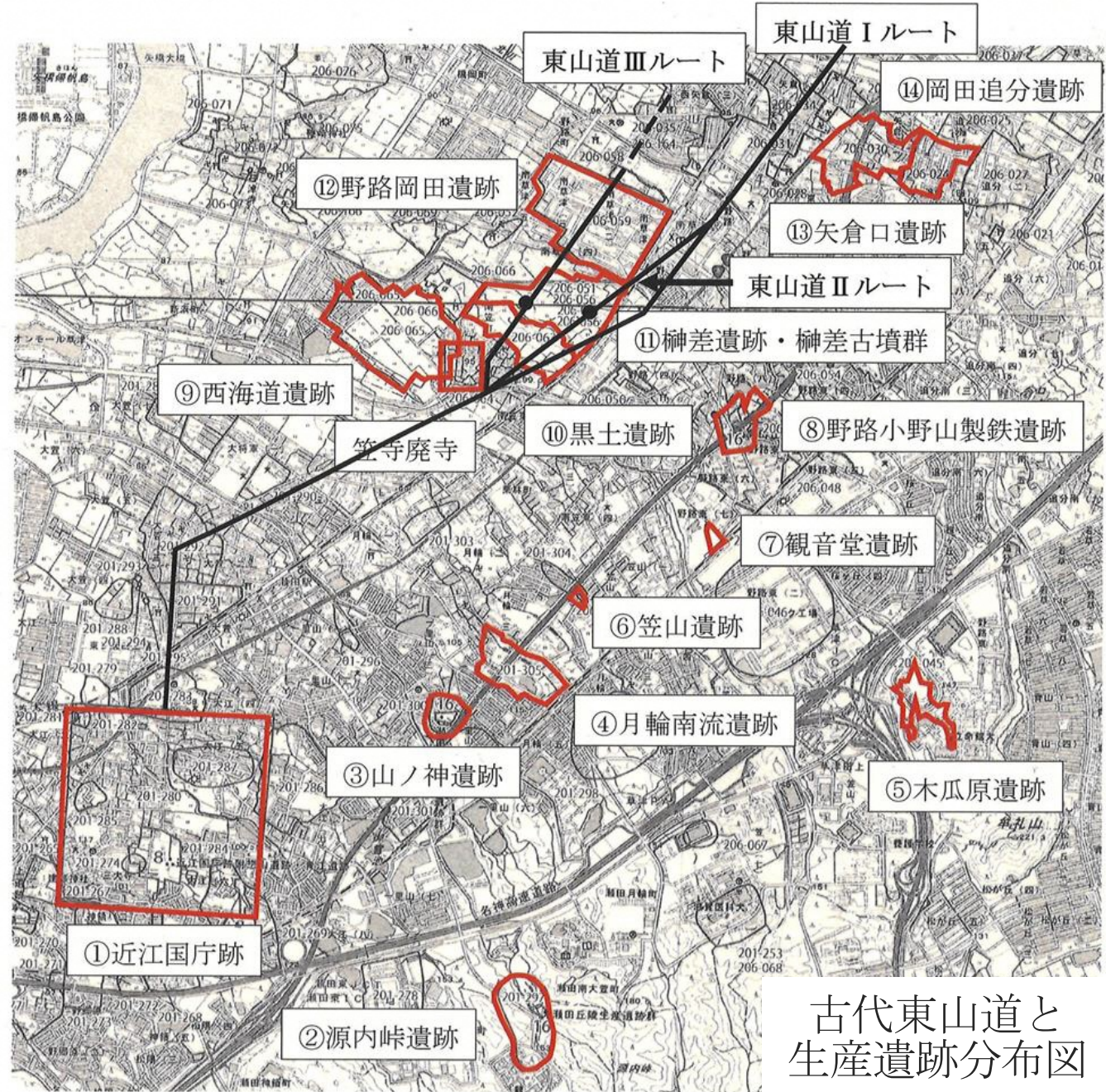
→木津川→奈良



古代の琵琶湖の街道と航路

草津市の古代

- ・ 瀬田丘陵上に広がる生産遺跡
→ 古代の都を支えた生産遺跡が本市南部には広がっていたと推定される。
- ・ 推定古代東山道
→ 生産遺跡が道に沿って展開。近隣の官衙・寺院等に供給。



草津市の中世

- 芦浦観音寺
白鳳期に創建されたと伝わる寺院。
中近世城郭のような構造を持つ。
- 船奉行としての芦浦観音寺
当時、琵琶湖は近畿と日本海を結ぶ交通の要衝であった。



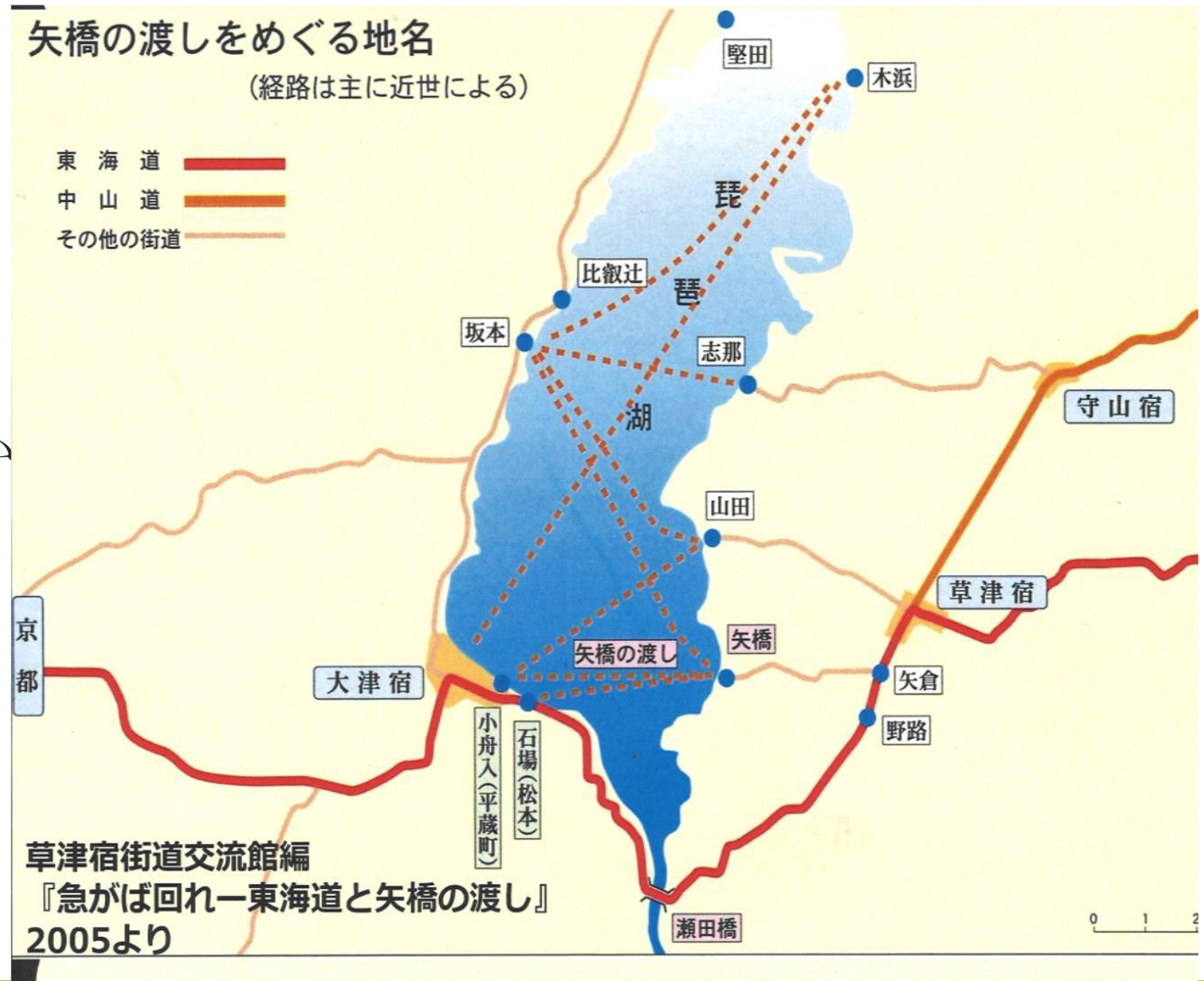
芦浦観音寺全体図

草津市の中世から近世

- 坂本—志那—守山を結ぶ
- 矢橋の渡しと瀬田橋

「瀬田へ回るか矢橋に下るか
此処が思案の姥ヶ餅」

「瀬田へ回れば三里の周り
ござれ矢橋の舟にのろ」



野路宿と草津

- 野路宿

現在のJR南草津駅前
(野路岡田遺跡)

鎌倉時代の宿として発達。

- のちに守山宿と野路宿の間に
草津宿が営まれる。

→野路宿の衰退



草津の鎌倉時代の
交通路

草津市の近世

鎌倉時代の一遍上人絵伝(1229年)
が“草津”の初出

宿場町草津

東海道・中山道が分岐合流する
交通の要衝として栄える。

東海道で江戸から数えて52番目
の宿場町



西回り航路の整備と琵琶湖水運

日本海~~×~~敦賀→琵琶湖

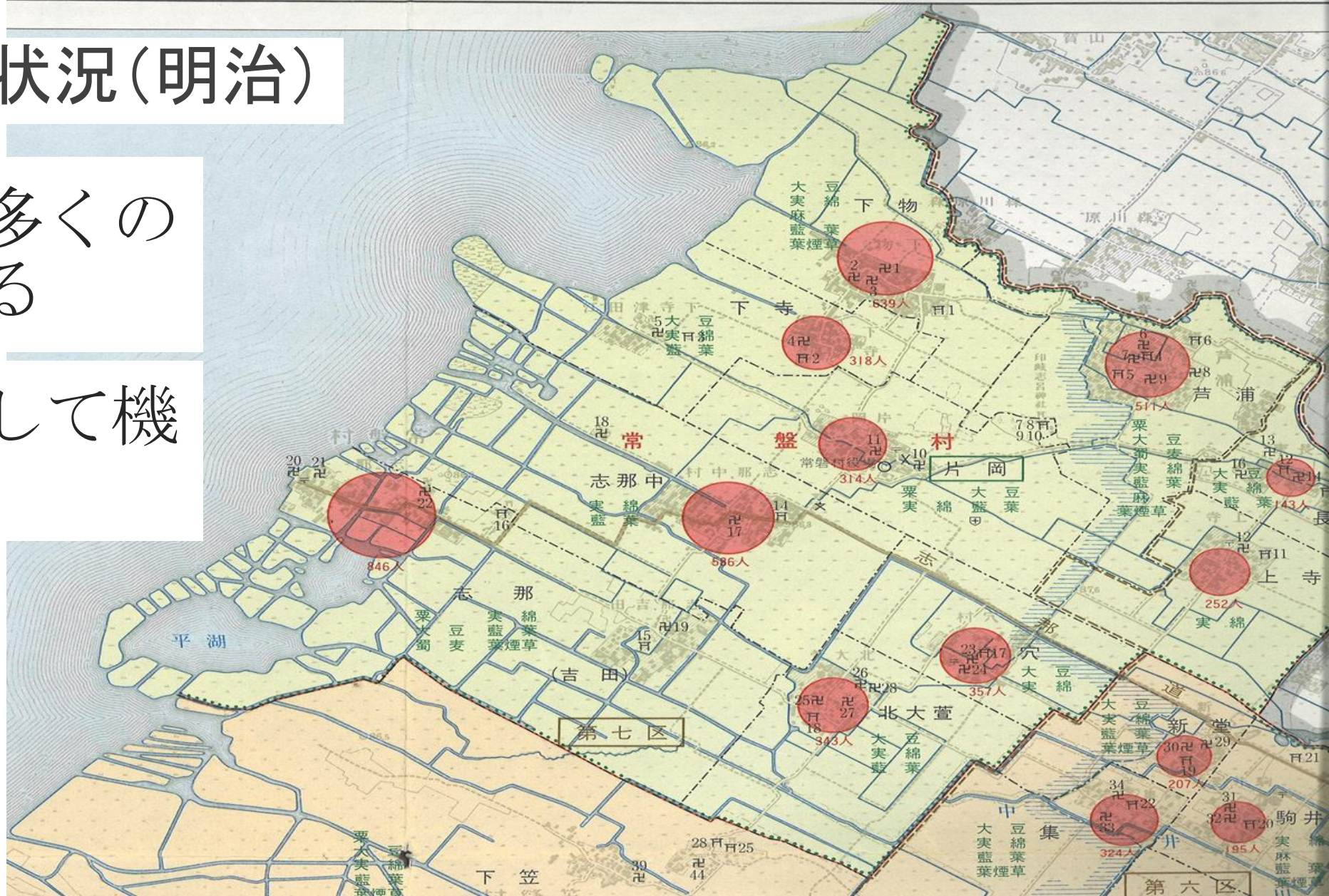
琵琶湖を経由しない航路の
発達



琵琶湖湖岸の状況(明治)

- 琵琶湖へと多くの水路が伸びる

→水路が道として機能していた





現在の矢橋の渡し

図版出典：滋賀県「近江大橋の概要」より